



## 大学史展示室A・Bの設営と概要

愛知大学史事務室 佃 隆一郎

オープン・リサーチ・センター整備事業の一環としての、東亜同文書院大学記念センター「大学史部門」の展示室リニューアルは、まず2006年度に「大学史展示室A・B」（常設展示）の移転新装が、第一期事業として行われました。

これは1998年より開設されていた旧展示室（大学記念館の現記念センター図書室の場）が仮設的なもので、陳腐化が目立ってきたことから、場所を記念館内東側の旧大学史資料室に移し、併せて展示物や展示の構成・説明を全面的に見直したものです。

新展示室のプランニングについては、設営の担当者になったナカシャ・クリエイティブ(株)（名古屋市）のチームと本学豊橋総務課の関係者によって、打ち合わせが2006年夏より進められました。その初期の段階から「本格的な展示ケースの使用」と「目玉商品」としてのジオラマの設置」が展示の基本方針として定められ、とくに後者では、（これまで各地の各種博物館・記念館の展示を手がけてきた）ナカシャ側の発案により、学生寮（豊橋校舎北側に1988年まで存在）の創成期における一室を再現することになり、資料調査が始まりました。

年が明けた2007年1月からは、東亜同文書院大学記念センター客員研究員も打ち合わせに加わって、活発な意見交換が行われたことにより、展示構成の具体化が進むことになり、基幹としての4コーナー「①愛知大学の創成」、「②愛知大学

を揺るがした事件・事故・紛争」、「③国際交流の発展と大学の社会的拡がり」、「④近年の愛知大学」が確定されました。展示室の数は移転前と同じ、大と小の2部屋（行き来可能）になりまして、大きいほう（A）に“過去にあったテーマ”としてコーナー①②およびジオラマを、小さいほう（B）に“現在まで続いているテーマ”として③④をそれぞれ配置しました。そして年度末の07年3月には、展示ケースとパネルを設置することができ、展示資料を精選して、4月19日に記念セレモニーを迎えることになりました。

ただ目玉の学生寮ジオラマについては、結局決定的な資料が見つからなかったことから、当時の写真をもとにイメージ的に再現することになり、細部において不十分な箇所がまだ少なからずあるかもしれません。学生寮に限らず、新展示室で展示・説明している各方面に関する資料や情報をお持ちの方がおられましたら、今後とも大学史事務室までご教示を下されたいところです。また、新展示室のテーマや資料の幅や数は、旧展示室よりも若干絞りこむ形をとったため、旧室をご覧になったことのある方の中には、物足りなく感じる方もおられるかもしれませんが、今回割愛したそれらについては、これから企画・特設展示の形で活かしていきたい方針ですので、ご理解のほどをお願いします（旧展示室に設置していた「1960年ごろの本学豊橋キャンパスの模型」は、記念館2階の旧学長室前に移設しました）。